



伊豆の国市 議会だより

2006年11月1日発行
No. 5

編集：伊豆の国市
議会だより特別委員会
〒410-2292 静岡県伊豆の国市長岡340-1
☎055-948-1417 FAX 055-948-2913



みんなで力を合わせて、よいしょ！よいしょ！（のぞみ幼稚園／大仁）

9月定例会

一般質問	2
委員会報告（平成17年度決算認定・18年度補正予算）...	7
議案一覧	12



一般質問

一般質問は10名が行い、当局の考え方をただしました。

伊豆の国市・伊豆市

広域廃棄物処理施設

について

土屋紀男

問

二市の境に選定された施設の、基本計画及び規模について。

答

環境に充分配慮した施設で、平成二三年頃に着工したい。概ねゴミ量は日量九〇トン、用地は一・六ヘクタール程度で焼却炉二基が必要と考えられ、ゴミの量を抑制してリサイクル化、ものづくりへの推進をしていく。

問

ダイオキシン問題で、周辺への影響について。環境影響調査の結果を見て、環境に対する負

答

荷が最小限に抑えられるよう、非常に優しい施設を計画している。

問

河川、道路整備の必要性も考えられるが。

答

県に要望し、道路も災害対策面と交通安全面

からも、拡幅改良等を検討して行きたい。

旧大仁町ごみ焼却施設及び

一般廃棄物最終処分場について

問

施設の解体は行つのか。解体後の返還予定は。

答

広域ゴミ処理施設建設の計画に沿って、利用計画の策定と解体計画を立てる。施設の一部は再利用し、最終的には、平地として返還をしていく。

問

土地賃貸借契約の設定と今後は。



大仁一般廃棄物最終処分場

答

契約期間は、処分場としての機能を有すると認める期間であり、残存埋立可能量一、二、二八九立方メートル、埋立量毎年八七〇立方メートルで、今後十四年間可能であり許可申請をしていきたい。埋立後は植栽も考慮している。

地球温暖化ストップ！

古屋鋭治

問

地球温暖化防止は、国際的にも二〇〇八年から温室効果ガス削減目標を設定し取組まれる。国、自治体、企業、個人レベルでの取組みが求められている。当市の取組み、削減数値目標設定、庁内対応について伺う。

答

京都議定書が採択され、旧三町とも計画を策定し公共施設の電気、ガス、燃料等削減目標を設定し取組んできた。当市は、本年度に地球温暖化対策実行計画策定支

援業務を委託した。十九年一

月完成予定で、出来しだい実行に移していきたい。削減目標数値は設定したい。庁内対応は、十七年度に組織が出来、職員への周知を行い、具体的な準備を進めている。



問

小児の弱視用めがね購入に助成を

小児弱視は早期発見が大変重要である。当市の健診時期、受診状況・受診結果は。また、治療用の眼鏡は数回買い替える場合があり、

保護者の負担が大きく助成制度確立が求められている。

考え方を伺いたい。

弱視の健診は、毎月の

答

一歳半・三歳児健診で行なう。十七年度は、受診児

童四〇三人のうち、弱視の疑いのある子は六六人で、比率は一六・三七％、弱視と判断されたのは六人で、率は一・四八％。合併当初から隣接市町に例が出ており、田方地区の担当者で給付する方向で検討してきた。今年三月に、厚生労働省から（小児弱視用眼鏡は）療養費として支給対象とする旨の通知があり、伊豆の国市、伊豆市、函南町で歩調を合わせ、今年度中に給付の対応をしていきたい。

食育を大衆運動に

伊藤泰伊

問 食育推進基本計画は、食育を国民運動として推進するために、具体的な数値目標を示していることが大きな特徴。伊豆の国市の現状はどのような計画で推進しているでしょうか。

答 県は本年度に、食育推進計画を策定する予定。



みんなで食べる給食おいしいね(長岡保育園)

当市といたしましては、県の計画に沿った形で作成をしていく考えております。

問

学校給食における地場産物を使用する割合は、米飯給食では、旧三町

答

とも一〇〇％地場のものを使用しております。その他に、たくわん、イチゴ、椎茸、これも地場は一〇〇％でございます。食の安全安心、新鮮味とか、そういうことを踏まえて地産地消というのが非常に重要なことだと思っております。今後も、積極的に導入、利用を検討していきます。

不妊治療に助成制度創設を

問

子どもを持つことを望みながら、不妊症のために子に恵まれない夫婦が現在多くなっております。少子化対策として保険適用の有無にかかわらず、不妊治療に助成制度の創設と実施を望みます。

答

県では特定不妊治療に対し、一部助成を実施しております。補助対象経費の二分の一以内で、一夫婦一年度当たり十万円を限度に五年間助成しており、国の制度がどの程度拡充されるかを見定めて、少子化対策事業の見地から助成制度について検討していきます。

治水対策について

大沢秀光

問

これから台風シーズンを迎え多くの市民が心配しています。市では水害対策について、どのような計画

を立て、対応していきますか。

答

市としての対応は、伊豆の国市地域防災計画に基づいて行い、具体的には大雨洪水警報が発令されると第一次配備体制により、当番職員及び消防団による冠水状況及び危険箇所等のパトロールが行われます。その情報に基づき、第一次から第二次、第三次

問

河川整備や機場整備が始められていますが、その進捗状況を伺います。

答

河川整備は県が葦山古川で、十六年度より五年計画で行い、現在古川橋の架け替え工事を施工中です。

問

治水対策の要望活動に対する国交省や県の反応を伺います。

答

小坂排水機場・戸沢川の要望に対し、迅速な対応により着手することになりました。



小坂排水機場増設工事

長岡地区の戸沢川は、十七年度より五力年計画で行われます。現在境界認定作業を実施し、確定次第用地買収、物件補償等の交渉の予定です。小坂排水機場では土木工事を実施しており、機械・電気設備工事が始まります。

北江間採石場の終了後
安全対策などについて

田中正男

問 今年三月で採石の許可期限が切れ終了となったが、後処理が残されている。危険な状態のまま残された採石穴の大きさは、

穴の埋め戻しは、どこがどのように行なうのか。地元の安全対策と理解は。

答 駿河開発採石場が十四万³m³、横根沢採石場が六十万³m³。

県の指導で採石業者が行なう。埋め戻しは安全な物で外部から搬入し、植栽まで行なうことになっている。

今まで迷惑をかけた地元の道路を拡幅改良し、地元の皆さんが安全で安心してできるように対応していく。



北江間採石場の採掘穴

農作物へのイノシシなど

被害対策に補助を

問 市内山間部において、農産物への猪、カラス、

ハクビシンなどの鳥獣被害が増え、農家が対応に苦慮している。電気柵、網などの対策に対し市の補助を。

答 実施している自治体の例を参考にして、前向きに考えていきたい。

市道沿いの草刈と

道路にかぶった枝の管理を

問 山間部の道路は、道路沿いの草や木の枝が伸びて道をふさぎ、危険な状態になる。地元住民が自発的に

周りの市道の草刈や枝下ろしをしているが、それ以外の場所の管理はどうするのか。

答 一部は業者に委託しているが、山間部すべて

の市道の管理は行き届かない状況。地元の皆さんが主に使用する道路や家の周りなどについては、市民の皆さんのご協力をお願いしたい。

南江間の

旧伊豆箱根グラウンドの
跡地利用について

三好陽子

問 このグラウンドは、旧伊豆長岡町が平成十六

年に、江間送水ポンプ場を建設する予定で買収したもので、

利用申し出に

より地域子ども会や老人会

に貸し出して

います。「避難場所・憩いの場として、いつでも使えるように」との地区要望が出ています。どのように考え

答 江間送水ポンプ場として必要な面積は、約八〇〇m²です。残り七〇〇m²については、一般開放に向け事務を進めています。

問 この会館は、築三二年が経過し、市民から「大ホールの椅子に座ると痛い」との苦情があり調査したところ、がたつき・ねじの緩

大仁市民会館の充実と改善を

問 この会館は、築三二年が経過し、市民から「大ホールの椅子に座ると痛い」との苦情があり調査したところ、がたつき・ねじの緩

きを検討していきたいです。

み・スプリングなどの不具合が、全体の三分の一程度に見られました。早急に点検し、改善が必要です。また、エレベーター・障害者用トイレの設置を考えていますか。

答 大ホールの椅子の改善は、暫時直していきたい。エレベーター設置は、現在難しいです。障害者用トイレは、財政と相談の上、前向きに検討していきたいです。



南江間の旧伊豆箱根グラウンド

葦山西幼稚園の改善を

柳沢秀次

震診断の結果が出たら順番に
改修計画を作りたい。

西幼稚園は、三歳児保育を

問 葦山西幼稚園は、平成十七年度より三歳児保育を実施し、部屋が足りないためホールを間仕切りして年長のすずらん組が使用し、入園式、卒園式、発表会等で、イスやテーブルを移動して使用する不便な運営がされている。旧葦山町のとき共和幼稚園との統合話もあったが、現状を何とか改善願えませんか。

答 西幼稚園の耐震診断の結果は相当悪く、十九年度で耐震補強工事を行う。市全体で見ると幾つかの耐震不安がある幼稚園、保育園がある。耐

時代劇場南側、市道葦二一四号線と国道一三六号線との接続は出来ないか

震診断の結果が出たら順番に改修計画を作りたい。

西幼稚園は、三歳児保育を導入したが部屋は作らなかつた。これは将来計画とかなんとか言ってもらえないので、暫定的にしる、そういう保育施設を考えなくてはならないと思っています。



葦山西幼稚園

循環型社会の形成を

後藤真一

社会形成をめざした施設整備を基本としたい。

事業展開は、中国野菜試験

問 時代劇場南側の市道葦二一四号線は、県立東部養護学校前の南北道路と交差した所で終わっています。市民の誰が見ても国道一三六号線と結ぶべきで、それなくして価値は無いと思います。市としては、今後どうしてゆく計画ですか。

答 この道は葦山地区の顔となる道路として、まちづくり総合支援事業等による整備が進められました。その後守山西公園計画の策定で国道一三六号線まで延長する計画を策定しましたが、地権者や周囲の方の同意が得られず現在に至っています。時間がかかっても一三六号線との接続は実現したいと考えております。

安全安心な食材のまちづくりと、地球温暖化防止のために、生ゴミをバイオマスとした循環型社会の形成を図るべきである。それは、ゴミの少量化とゴミ処理施設の軽量化、有機肥料(堆肥)づくりと栽培を可能にするが。

バイオマスタウンをめざす資源循環と、地産地消をめざす経済循環とによる健康づくりを目標としている。

廃棄物処理基本構想策定と、まちづくり構想も統一した理念の下にすすめたい。循環型

市民発意の自治活動に
予算配置の制度化を

住民の自治活動と主体的創造的参加、自主活動への支援と誘導・指導をねらいとしたシステムを。

まちづくりご意見箱や市政懇談会・地区要望書で対応している。ゆめづくり市民会議の提案等を参考に総合計画策定をしている。市民発意のアイデアを審査しての補助金支出はしていないが、地域づくり事業補助金一件上限三〇万円、予算総額一〇〇万円の制度がある。しかし、自助努力による活動を期待するが、今後の研究課題のひとつである。



中国野菜試験栽培

伊豆の国市の
地域防災計画について

土屋源由

問

耐震補強・河川改修等の問題が未解決で、本庁舎や避難場所の機能は発揮出来るのか。また、その情報提供は…。

答

本庁舎の水害・地震等が発生した場合の本部機能の確保をするために、戸沢川の改修工事を平成十七年度から五カ年計画で実施しています。また、本庁舎の耐震補強設計は、委託契約を締結し、現在補強方法等の協議中です。

想定外の災害に見舞われた時は、田方消防の本署が全体的な機能として把握できる場所ですが、市の問題としても検討を重ねていきます。

災害時の避難場所の耐震状況については、市の指定避難所は二一施設あり、やや劣る施設が四施設で、市所有の二



伊豆長岡庁舎横の戸沢川

答

策定中の総合計画の基
本計画の中で、観光交
流の振興策として温泉場通り
の修景整備が取上げられ、来
年度には観光ビジョンの策定
を予定しています。地元の見
を広く聞きながら、温泉街
活性化を含めた観光振興策の
具体的な事業計画を取りまと
め、事業実施に当たっては、
地元が自力で出来る作業と、
行政が計画的に整備を進める
仕事の仕分けを行い、地元の
努力には可能な限り支援し、
両者が連携し効率的かつ効果
的な事業を進める事が理想と
考えます。

県税と市町村税を共同
処理しようとする地方
税の一元化について

矢田博美

問

現在、納税者の利便性
向上と事務の効率化を
図るとの観点から、県・市町
固有の課税権は尊重しつつ、

広域連合である静岡地方税機
構（仮称）等の専門の組織を
設置して、地方税を共同処理
しようとする地方税一元化が
検討されています。その内容
は地方税賦課徴収事務の共同
処理、電算システム統合、申
告書などの各種様式の統一化
であり、その効果として、納
税者の利便性向上や人件費の
縮減、事務コスト縮減、電算
システムの統合等によるラン
ニングコストの縮減、徴収率
の向上などを挙げています。

しかし、新たな機構組織の
立ち上げは実質的な税務職員
数の削減と、それによる人件
費の縮減となるのか。税事務
の集中化による事務コスト縮
減効果は、県下四二市町全て
の加盟と税事務の統一化が前
提となるのではないか。また
電算システムの統合等による
ランニングコストの縮減効果
については、三島市、伊豆市
及び伊豆の国市電算センター
協議会に加入している伊豆の

答

国市には新たな費用負担の発
生となる。徴収率向上も県税
との内容が違う点や、窓口も
機構となることから住民にと
つての利便性向上につながっ
ていくのか。以上伊豆の国市
としての基本的な対応は。

現時点では、事務体制
が調整中であり参加団
体が不明である為、具体的な
費用負担や派遣職員数の提示
がなく、今後協議を進める中
でこれらを考慮し、機構への
参加不参加を決定したい。



新たな費用負担は、完全一
元化までに電算システム構築
費、機構本部、地方税事務所
等の開設経費等がある。さら
に完全一元化後には機構運営
費、一般事業費、電算システ
ム運営費等がある。経費面を
含め総合的に検討していく。

委員会の報告

平成17年度の決算は、伊豆の国市として初めての決算であります。合併直後とはいえ、大きな混乱もなく決算を迎えました。また、平成18年度一般会計補正予算は、歳入歳出予算にそれぞれ287,336千円を増額、継続費の追加、債務負担行為の変更、地方債の追加及び変更などです。

いずれも各委員会に付託され審査しました。

総務委員会

平成十八年度補正予算

一般会計補正予算

歳入では市税固定資産税現年分が、七三四〇万六千円。地方交付税が六一一万四千円。北江間財産区特別会計繰入金が四〇三万六千円。道路新設改良事業に対する地方債が七五二〇万円の増額などです。

歳出では北江間財産区管理事業の北江間各区補助金が一七三万二千円。基金管理事業の財政調整基金への積立金が一億七八一七万八千円の増額。情報システム総務管理事業の情報電算センターへの負担金が二〇〇万円の減額。

また、行政無線維持管理事業のデジタル化工事が、特別債に組み込まれたため、防災行政無線デジタル化整備事業に名称を変え、五年間の継続費の補正となった。委員から、戸別受信機が使えなくなることにについて心配の意見があった。

土地管理特別会計補正予算

歳出では市有地立木補償が

九一六千円。土地管理対策基金積立金が三二万八千円。

土地管理基金利子積立金が一千円でありその財源は一般会計からの繰入金です。

市有地立木補償の支払は開始から二〇年が経ち、本年度が最終年です。基金積立金はかつらぎ山の収入の二分の一を積み立て、二分の一を地元小坂区の植林管理組合へ旧償使用権廃止補償費として支出しています。

平成十七年度決算認定

財産運用収入について

平成十七年度末の一般会計基金残高は、三二億二千万円です。特別会計と北江間財産区分を加えると、五〇億六千三百万円になります。三八億円のうち、八億三千万円を国債にて運用しています。今後とも国債の運用割合を多くするよう検討しています。

起債元金償還事業の郵政公社民営化に伴う今後の対応

伊豆の国市の実質公債費比率は一・八%です。一八%以上になると起債するときに県知事の許可が必要になります。二五%以上は、地方債の発行制限を受けます。郵政の関係では、いくつかの会社に分割してということなので、郵政公社から借りていくことは、今後減っていくと思います。

友好都市交流の海外との関係

旧大仁町はアメリカのゲインズビル市で、旧伊豆長岡町はオーストラリアのグラフトン市と交流をしていました。今後は海外との関係をどうしていくか答を出せる状況ではありません。

北江間財産区の今後の運営

北江間地区だけが分合され、新しい村をつくった場合とか、財産区に財産がなくなつた場合は廃止されます。



北江間地区の採石場

採石場がなくなっても、土地があるので財産区というのは残ります。

出すと予算の範囲内では賄い切れません。報告のあった部分で、実人数に合わせて調整し配分していく形になります。

消防団の出動費について

消防団の出動費は予算との関係で、難しい問題があります。訓練・火災・災害で一律

市税の滞納状況の説明

市税の関係では、不納欠損の問題や収納率の問題等、滞

納繰越分がどんどん増えている。未納額の約七割を占める固定資産税の滞納累積によるものが殆どです。

委員会では、滞納は税の公平性の観点から、徴収方法については強く改善を求めることで意見が一致しました。

以上で総務委員会の審査を終了し、賛否を問いましたところ賛成多数でした。

福祉環境委員会

平成十七年度決算認定

今年四月より市の組織変更があり、特別会計は介護保険に加え、国民健康保険と老人保健が所管になりました。

紙面の都合で、すべての審査経過を報告出来ませんが、主な質疑内容を市民の皆様にお知らせ致します。

問 国民年金は社会保険庁の直接徴収になったが、市の徴収率はわかりませんか。

答 年度が変わると地区ごとに

公示されます。十七年度はまだですので、徴収率はわかりません。

問 老人保健の無受診者記念品代一〇〇万円が約半分で済んだのはなぜですか。

答 当初一人二万円で六十八人を予定したが、今後の事も考え一万円に下げた結果であります。

問 ごみ収集方法が旧三町で違うが、市として統一が出来るか。

答 伊豆長岡、葦山地区は業者、大仁はシルバーで行ない契約の違いがある。シルバーは市の車を使用しているため、全体的な比較が必要です。

問 十七年度敬老会事業の参加者の反応はどうでしたか。

答 葦山は式典終了後に地区で敬老会があり、葦山、長岡地区からは批判がなく、大仁地区からは昔のように飲食を伴う方がよいとの意見が有りました。

問 成人病検診が無料になった

事で、受診者は増えているが効果はどうですか。

答 早期発見、早期治療が目的で受診者増は喜ばしい。効果は少し先でないかと判断は出来ません。

以上が当委員会での一般会計決算で、福祉環境委員会所管事項の質疑内容でした。

最後に委員会としての採決を行い、一般会計、国保、老健、介護の各決算案を、賛成





米寿のお祝い（敬老会）

多数で承認する事に決しました。

平成十八年度補正予算

国保会計と老人保健特別会計では補正項目が少なく、本会議での質疑のあと即決で承認されました。

従って一般会計と介護保健の補正が当委員会に付託され審査しました。

審査の主な内容を報告します。

問 ライフサポート事業（身障者デイサービス）について八人の利用者を考えているとの

事だが、もっと多くないか。現状はどうですか。

答 重度心身障害児の子供を抱えた家庭は、二十件ぐらいあります。障害者支援法が厳しくまだ手をあげる事業所がありません。サポート事業は緩和され現在手を挙げる事業所もありません。今後は増加傾向です。

問 介護報酬返還金で不正請求とあるが、どう言うことか。また、非常勤職員のため三割減算とあるが、どういう事ですか。

答 介護報酬の基準に違反したら全て不正行為、不当行為の文言で処理されます。今回は、事業者は、常勤のケアマネを置かなくてはならないという点の解釈で認識不足があり、短期間であれば非常勤でも構いませんが、報酬は三割減額しなければなりません。常勤と同じ全額請求したのが要因です。

審査の結果、付託された案

件を賛成多数で承認する事に決しました。

観光建設委員会

平成十七年度決算認定

観光商工課では

観光振興事業の補助金に規程はあるのかとの間に、イベントは旧伊豆長岡町が圧倒的に多く、合併による持ち寄り予算であったため、十割補助が多かったのが現状である。しかし、補助規定は前からあり、今後統一していく方向にあるとの回答があった。

文化振興課では

自主文化事業で入場料を取っているが、文化振興事業委託料の中で賄っているのかとの間に、委託料に対して収入も含めた形で事業を展開しているとのこと。友の会の目的と一部の人に優遇する事にならないかとの間に、友の会はチケットの販売促進を目的に

設置しているが、先行販売で埋まらないように席数の半分以上に抑えているとの説明があった。

農業振興課では

温泉掘削事業で温泉活用構想指針作成業務を委託しているがとの問いに、予算は取つたが企画部の温泉推進室が主になっていて、報告書は出来ているとの回答があった。



都市計画課では

建築確認受付状況で市より民間の方が多いがとの間に、民間の方が早く下りてくるからである。市から県に經由する日数がかかるために民間を利用する数が多くなったとの回答があった。

建設課では

道路工事でカーブの傾斜に基準はあるのかとの間に、基準は道路構造令があるが、場所によって様々な条件があり、周辺に迷惑がかからない勾配をとっているとの回答があった。

平成十八年度補正予算

農業振興課では

静岡県農地・水・農村環境保全向上活動支援地域協議会



堂川河川現地確認



上水道3,000トン配水タンク現地確認

で、多田地区がモデル地区に選定され、地域ぐるみの活動に対する事業に補助金が出るとの説明に、他地域より異論が出る可能性があるので、選定された理由や基準をはっきりしておくようにとの意見があった。

観光商工課では

中国野菜料理試作試食会交付金で、栽培をされた中国野菜を調理師会に依頼して試食会を二回開催するとの説明に対し、手の込んだ料理だけでなく一般家庭向きの調理方法のレシピも作るべきとの意見があった。広域観光宣伝事業では、入国心得パンフレットを五千部の増刷と英語、中国語、ハングル語版を各千部作

るとの説明があった。この部数で足りるのかとの問いに、観光案内所に置く程度で、主に観光PRをする時に持参して配るとの事であった。かつらぎ山ハイキングコース維持管理事業は、当初計画の整備とは別に、群生する山つつじや見晴らしの良い山腹への遊歩道を新たに整備をするとの説明があった。委員からは、かつらぎ山だけでなく周辺地域までを考へての広範囲な整備計画を検討すべきではないかとの意見があった。

建設課では

小坂都市下水路整備事業で用地取得が遅れて調整池の整備はどうなるのかとの問いに、今年度に用地買収し、来年の



古川橋現地確認

貯水期には工事が出来ないのが、秋以降に工事を実施する予定だったので、取得が遅れても完成の時期に変わりはないとの回答があった。

審査の一部のみの報告ですが、この他にも四つの特別会計の審査もしています。慎重に審査した結果、委員会では全て採択すべきとの結論を出しました。

文教委員会

平成十七年度決算認定

問 東部広域少年の船への参加とその効果は。

答 中学生が北海道へ六泊七日で十二名が参加した。期間中、規則正しい集団生活が身につく、他市の中学生とも、仲間づくり交流することで、広く見聞が開かれ、大きな効果がありました。

問 今年度も県駅伝大会に参加する選手の選考は。

答 小・中学生については、学

校の推薦で、その他は公募した。また、過去の実績のある選手には直接誘いをかけた。現在一〇〇名位集まり練習しているが、最終的に状況を見て、二週間くらい前に、選手を決定していきたい。

問 A-LTの意味と内容は。

答 A-LT英語指導助手は外国人講師です。中学校に常駐しながら、年間一八〇日の中で、小学校へも行き子ども達に本場の英語に親しみ発音練習等の指導をして効果をあげているものです。





おじいちゃん先生（ひまわり保育園／大仁）

問 おじいちゃん先生配置の効果は。

答 保・幼稚園に、おじいちゃん先生がいて、年間行事等にも参加し、園児と共にさまざまな作業のお手伝いをしていただき、大きな成果をあげています。

問 三館の図書館がシステム化されるか。

答 葦山、長岡、中央（大仁）の三館の蔵書も二十万冊となりました。三館での貸出しがどの館でも対応出来るようになり、利用者カードも出来、インターネットでの予約も可

能。十月三日にシステム稼働になりました。

平成十八年度補正予算

問 市内遺跡発掘調査負担金はどういうものか。

答 葦山地区の道路拡幅や、大仁地区の急傾斜地にかかる文化財発掘調査の負担金である。

問 青色回転灯が各学校に、配備されたか。

答 各小・中学校に脱着式青色回転灯が配備されるが、生徒達をねらった凶悪犯罪の未然防止、地域の治安対策や交通安全啓蒙として配備する。登録をされた車の運転は、許可講習済みの先生方に限定され、必ず二名で巡回をする。尚、田中山分校には、大仁小学校から巡回する。

問 ひまわり保育園大仁分園の池浚渫工事の内容は。

答 工事面積一〇六・五平方メートルで、池に堆積した土砂を、ポンプで吸引する工事です。十月末日までに終了する



脱着式青色回転灯装備車

予定です。

問 教育扶助費の申請はどのように行なわれるのか。

答 各学校での学用品・給食扶助費等の申請は、親からの申請を受け、学校長や民生委員の所見で、校納金等の支払い状況や、家庭の生活状況等を参考に、教育委員会で審議決定される。他にも、学校の階段、屋上の手摺の取り替え、トイレの改修、水道工事等多数審議した。財源を確保しながら、教育施設には不備のないように要請した。慎重審査の結果、全委員、賛成で可決しました。

平成18年 第3回(9月)伊豆の国市議会定例会

今回の議会では、平成17年度決算の認定について、各常任委員会に付託して慎重審議が行われました。平成18年度一般会計および特別会計の補正予算、条例の制定と改正、長岡京市(京都府)との姉妹都市の提携など31件が上程され、審議の結果すべて原案どおり可決しました。

可決承認された議案一覧

- ・平成18年度伊豆の国市一般会計補正予算(第3号)の専決処分について
- ・伊豆の国市消防団条例等の一部を改正する条例の制定について
- ・伊豆の国市介護保険条例及び伊豆の国市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について
- ・伊豆の国市消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- ・伊豆の国市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について
- ・田方精神障害者社会復帰施設の設置及び管理に関する条例及び伊豆の国市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について
- ・道路の路線の認定について
- ・自治功労表彰について
- ・伊豆の国市議会の議決すべき事件を定める条例の制定について
- ・伊豆の国市長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の制定について
- ・平成18年度伊豆の国市一般会計補正予算(第4号)
- ・平成18年度伊豆の国市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)
- ・平成18年度伊豆の国市老人保健特別会計補正予算(第2号)
- ・平成18年度伊豆の国市介護保険特別会計補正予算(第2号)
- ・平成18年度伊豆の国市簡易水道等事業特別会計補正予算(第2号)
- ・平成18年度伊豆の国市下水道事業特別会計補正予算(第2号)
- ・平成18年度伊豆の国市楠木及び天野揚水場管理特別会計補正予算(第1号)
- ・平成18年度伊豆の国市土地管理特別会計補正予算(第1号)
- ・平成17年度伊豆の国市一般会計歳入歳出決算の認定について
- ・平成17年度伊豆の国市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について
- ・平成17年度伊豆の国市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について
- ・平成17年度伊豆の国市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について
- ・平成17年度伊豆の国市簡易水道等事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- ・平成17年度伊豆の国市下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- ・平成17年度伊豆の国市楠木及び天野揚水場管理特別会計歳入歳出決算の認定について
- ・平成17年度伊豆の国市土地管理特別会計歳入歳出決算の認定について
- ・平成17年度伊豆の国市上水道事業会計決算の認定について
- ・姉妹都市の提携について
- ・駿豆学園管理組合の共同処理する事務の変更及び規約の変更に関する協議について

編集後記

「のど元過ぎれば熱さ忘れる」

残念ながら、正に社会通念の変化を感じざるを得ない状況にある。走行中のドライバーが携帯電話で通話している姿や酒酔運転・酒気帯び運転の多さが問題化している。罰則強化は周知の通り。尊厳なる生命の重みを大切に思いやりある運転で、伊豆の国市民全員が事故の根絶をめざしたい。

議会だより 特別委員会

委員長
副委員長
委員

古屋 鋭治
菊池 俊彦
伊藤 泰伊
大沢 秀光
後藤 眞一
田中 正男
三好 陽子
柳沢 秀次